

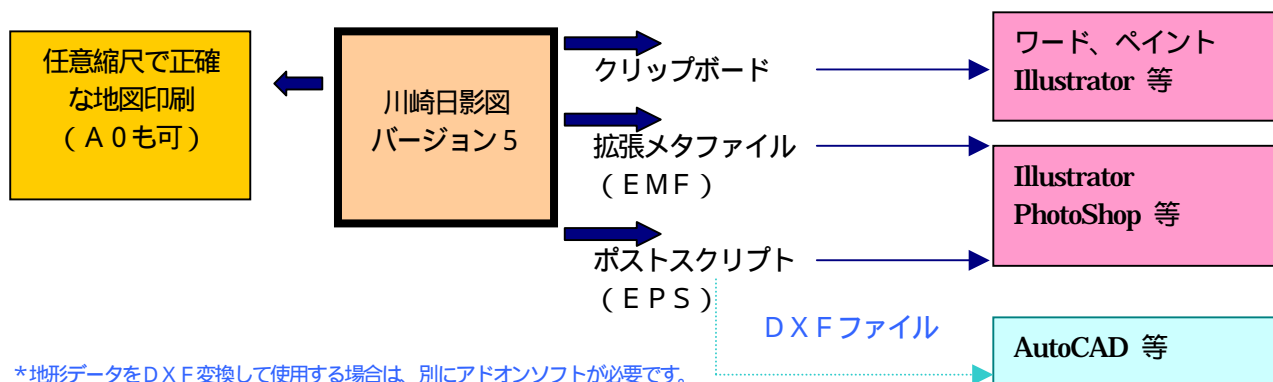
川崎市デジタル地形図2500

# 超GIS 川崎日影図バージョン5

川崎市版ブラウザ・印刷・地図データ加工ソフト

デジタルマッピング(DM)のデータ

がデザインやCADで使える!



\*地形データをDXF変換して使用する場合は、別にアドオンソフトが必要です。

【川崎日影図バージョン5】は川崎市発行の「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」(平成16年度修正図化)を前提にしています。最新のデータは「川崎市デジタル地形図2500Ver.4」(平成21年度修正図化)ですが、このCDに格納されている地形図は、拡張子はDMでも「DMデータ」ではありませんので、読み込むことも使用することもできません。「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」CDをお手元にご用意下さい。

【川崎日影図バージョン5】は「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」(以下DMと呼称します)の地形の正確さ、建物データの位置の正確さ、形状の正しさを、皆様に最大限利用して戴けるよう作成されたものです。季節毎の太陽の黄道、川崎地域での太陽の方向、高度の時間変化より、目標地域に対して周辺の複数の建物が及ぼす「日影図」を求めることを主題としています。ブラウザ機能と正確な縮尺の印刷、地図データの加工、更にはユーザの皆様がオリジナルなGISを、なかば自動的に構築できることに主眼を置いた、「超」GISプログラムです。地形図データはDMのみならずユーザデータも含めて、クリップボードや拡張メタファイル(EMF)、EPSファイルで出力でき、デザインやCADに活用できます。また、基本機能として、DMの建物や線データの仮削除や、ユーザが代替建物や線データを入力できる機能、あるいは建物に付随する注記や地図記号の仮削除や、代替注記や地図記号を入力できる機能があります。さらに各種の面形状(公園、地域や家形等)線形状データ、注記・記号および注記の囲み図形、さまざまなシンボル等を自由に作成・入力できるユーザマップ機能を持っています。その上、属性データベースと連動した2000種の主題を扱うカテゴリーマップ機能と相俟って、高度なGISが構築できます。

## 動作環境

OS: Windows 98, Me, NT, 2000, Xp, Vista, 7

CPU: Pentium 300MHz以上を推奨

メモリ: 64MB以上を推奨

ハードディスク: 140MBを要します

ディスプレイ: 1024x768ドット以上、256色以上を推奨

(インストールにCDドライブが必要です)

背景となる地形データは川崎市が発行した「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」を使用します。このため、川崎日影図バージョン5を稼働させるには川崎市発行の「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」CDが必要です。「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」CDをお手元にご用意下さい。

## 川崎日影図バージョン5の概要

川崎市が発行した「川崎市デジタル地形図2500Ver.3」を基データとした川崎市のブラウザです。

図郭跨りもシームレスに、A4からB0まで、任意の縮尺で、正確な白地図・加工地図が印刷できます。(市販の2,500分の1白地図と同様の地図が印刷できます)印刷時に「自由な凡例」が作成でき、出力位置も設定できます。

DMの全レイヤ、全項目をオン/オフ表示・印刷できます。レイヤは行政界、建物及び付属物、等高線・地形等12レイヤ、195項目です。

DMの建物は図郭内で閉じている時は面となりますが、図郭跨りあるいは図郭内でも棟割の場合は線となります。

地図は任意の縮尺で表示でき、最大拡大、最小縮小の設定もできます。最小縮小は「制限なし」に設定することもできます。

地図は回転方向の指定や、回転角度を指定して回転させることができます。回転した地図上でも、拡大、縮小、八方向移動といった図面操作や、距離計測、面積計測、角度計測等が自由に行えます。

DMの項目の図上検索ができ、個々のデータ毎に削除、復活ができます。

DMの線・面データの指定された辺の、真北からの角度を計測することができます。また、マウスで指定した2点の、真北からの角度を計測することもできます。指示したDM線(建物も含みます)の範囲を図上表示することもできます。

ユーザマップ機能により家屋や面形状、線データ、注記、注記の囲み記号、シンボルが自由に入力でき、多目的地図が容易に作成できます。ユーザマップはカテゴリー化でき、カテゴリーは最大2000種まで設定できます。それぞれのカテゴリー毎に個別に表示したり、全てを同時に表示したりできます。カテゴリー化されたユーザマップは、属性データベースと連動して高度なGISが構築できます。

表示画面を切り出してクリップボードから他のソフトで利用できます。また、拡張メタファイル(EMF)が直接作れ、ワードやエクセルで縮尺指定の高精細の地図が利用できます。また、地図データがEPSファイル出力でき、デザインやCADに活用できます。EMFやEPSファイルは画面が回転した状態でも、回転後の座標で作成できます。

日影図関連機能は日影図、日影分布予想図、縁線図より成ります。日影図は、時刻変化図、高低変化図、時刻・高度指定日影図が作成できます。日影分布予想図は対象建物に対して既存の周辺建物群と主建物群が、年間を通してどのように日影を及ぼすかの予想分布図です。縁線図は二つあり、敷地縁線図は敷地形状に対して高さH/2Hの縁線図を表示するものです。建物縁線図は建物に対して高さHの縁線図を表示します。

## 前のバージョン3からの機能拡張および主な変更点

地形図データが世界測地系となり、図郭割りも世界測地系に従っています。

レイヤのユーザ表示機能：DMの全項目について表示の色や線種、線号(線の太さ)を個別に変更できます。線号は実線の時のみ有効です。

DMの項目の重複検索や重複削除が可能です。また地図データを連続削除することもできます。

図郭指定で1つ1つの図郭が表示でき、白地図と同一範囲の同様の地図が印刷できます。

表示したいレイヤを予め設定して、99個の「ユーザ設定レイヤ」機能を追加できます。

地図上にグリッドを表示できます。グリッドは基準位置の横座標、縦座標とグリッド間隔(横、縦別々に指定できます)で指定します。グリッドが表示されている状態で地図データ変換(EPSやEMF等)を行った場合、グリッドも一緒に変換でき、とても便利です。

しおり機能により簡易のデータベースシステムが構築できます。しおりの検索はグループ毎に一覧リストから選択でき、操作が容易です。

ユーザマップが簡単な操作でカテゴリー化できるようになりました。属性データベースは自動的に構築でき、「データベース台帳呼出し」の機能で自由に編集できます。また、予め外部で属性データベースを作成しておき設定することもできます。属性からのキー検索によりマップが検索でき、属性と対応付けられたマップは属性表示が可能です。この時、「非定型」つまり項目の並び順にフィールド表示を行ったり、「定型」つまり、きちんとした表示フォームで表示したりできます。

日影図関連機能を日影図、日影分布予想図、縁線図の3つの独立した機能に分離し、操作が簡便になりました。

色帯と色番号の対応付けにより、色設定が簡便になりました。

レジューム機能により、前回終了状態から操作を開始できるようになりました。

ムーエス株式会社

〒155-0013 東京都渋谷区恵比寿2-14-19

Tel : 03-3446-8456 Fax : 03-3446-8073

URL=<http://www.mues.co.jp> E-mail : [ami@mues.co.jp](mailto:ami@mues.co.jp)

**Mues**

地理情報システムの骨格となる「線データから面データを構成する」アルゴリズムを核として、図郭跨りの処理、領域分割面の分割・統合に関して、弊社では独自の的方法論を編み出し特許を取得しております。

(特許第3340816号)